

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270100864		
法人名	特定非営利活動法人 久米の家		
事業所名	グループホーム 久米の家		
所在地	島根県松江市法吉町久米803番地2		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年2月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所の基本理念である「いっしょに・楽しく・ゆつくり・穏やかに」を基盤に、ご利用者一人ひとりの目指す姿を職員間で共通認識し、チームでケアを提供しています。疑問があるとすぐにでも職員間で話し合い解決に繋げるようにし、ケアも決まっている事だから・・・と何気なくするのはなく、ケアの1つひとつの意味や根拠を知って行うようにしています。職員は黒子のようなさりげないケアを目指し、ご利用者、家族、地域そして福祉の仕事を目指すこれからの職員や人材にとって必要とされる施設になりたいと職員一丸になって取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

一つひとつのケアの実践は常に理念を意識した行動となるよう、内・外部研修や経験の蓄積を行い、常に職員同士で注意しあい、自己を振り返り、利用者に「さりげないケア」をしている。地域と積極的に関わり、地域の人への定期的な事業所説明会開催や研修講師などを務め、事業所の理解を広めている。利用者は笑顔で「ここはいいよ」と話し、運営推進会議では「久米の家がこの地域にあり心強い」との意見をもらうなど、地域密着型事業所としての役割を果たし日々サービスの質の向上に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所の理念が一体になっている。新規職員採用時にも理念について詳しく説明している。職員は、常に理念を意識しながら、自己を振り返り全体で意見を出し合い、理念を自分の行動に繋げている。	毎月の定例会や日々のミーティングで話し合い理念を共有している。一つひとつの行動は理念を意識したケアとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、お互いの行事にも参加し交流を持っている。地域の方を招いて事業所説明会を定期的に行ったり、地域の自治会の研修会の講師を依頼され、福祉の推進を広め、「久米の家」があるから安心と言われる事がある。	自治会に加入し「なごやか会」「夏祭り」等の行事参加や、歌や体操、将棋のボランティアも訪れ日常的に交流している。若い世代が多くなった地域の会や研修の講師に出かけ、福祉の推進もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の職員手作りの認知症の紙芝居があり、地域の方にも宣伝はしているが依頼はまだない。行事や交流会の場、運営推進会議で認知症の方の対応方法について相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価への取り組み、評価結果、改善計画についても意見交換し改善に繋げている。困難事例についても会議の中で話し合い、サービスを一方からみるのではなく、多方面からの意見をサービス向上に取り入れている。	会議では現状報告だけでなく「地域からみた事業所」や外部評価の改善計画の取り組みを意見交換している。事業所の活動の様子が知りたい、もっと地域に施設の紹介をしてほしいなど意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った時や判断に悩んだ時など、その都度、相談し助言を頂いている。運営推進会議を通して、事業所のケアの仕組みや、実際にご利用者の暮らしぶりを見てもらい意見交換を行なっている。	介護保険制度や利用者の相談事項については積極的に実情を伝え、担当者との意見交換し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のケースは開所より今までない。職員一同「なぜ」の視点で理由を探り、さまざまな角度よりアセスメントを行ない、対策を考えている。行動を止めずに、さりげなく付き添うようにしている。	内・外部研修で正しく理解し、日常のケアの気づきを職員同士で注意しあい身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関先に出る人にも止めるのではなく、見守ったり一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で学ぶ機会を持っている。特に久米の家では、言葉使いや対応には気をつけている。また、職員間でストレスや気持ちを溜めないように、何でも話せる関係作りに力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で学ぶ機会を持っている。現在、2名の方が成年後見制度を利用されており、ご家族や担当弁護士、関係者の方と連携し支援している。お2人とも成年後見制度を導入の前よりご家族より相談され支援に繋がった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、説明に時間をかけ納得して契約出来るように心掛けている。専門用語ではなく理解に繋がるわかりやすい言葉で伝えるようにしている。改定時は、家族会で説明を行ない理解に繋がっている。解約時にも、何度か話し合いの場を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時、ご利用者やご家族にも参加して頂き、意見を言える場作りをしている。ご家族様から市の担当者の方によく質問されている。日頃から何でも気軽に言える関係づくりを心掛けている。	面会時には常に話しかけ何でも言って貰えるような関係づくりをしている。家族会では職員手作りの紙芝居、「認知症について」を一緒に学び家族から意見、要望を出しやすいよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、定例会(月1回)や面談(年3回)を通して職員の意見や提案を聞く機会を設けている。日頃から管理者は、職員との何気ない会話からも汲み取ってもらっており、全職員運営に参加させてもらっている。	ミーティングや定例会で意見や提案を聞く機会を設けている。日常的な関わりの中から職員の思いを汲み取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者と兼務しており、現場の状況も把握しており、職員が働きやすい職場になっている。育児・介護の制度が整備されており、安心して働いていける仕組み作りが出来ている。パート職員の正社員への転換制度も整備された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力、その時に悩んでいる事などに応じて、資格取得や外部研修のお知らせ言葉掛けを行なっている。興味のある研修は、職員の自発的な学びの気持ち作り結びついている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、小規模連絡会の会や研修会に職員も参加して交流を持っている。今年は、「ケアサポートことぶき」と連携し、互いの事業所の活動を紹介し、互いに向上しあう取り組みがスタートした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や地域交流会にお誘いしたりし、事業所の雰囲気を感じてもらっている。自宅訪問で暮らしぶりを知り、コミュニケーションを図りながら、ご利用者との関係づくりを行ない、安心につながるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をゆっくりと聴き想いを汲み取るよう心掛けている。その想いを何処まで現実近づけ、何が何処まで久米の家で出来るのかを話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時早急な対応が必要な場合で久米の家で支援が難しい場合は、ご家族、在宅のケアマネージャと協議し他のサービス利用に繋げたケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が歩んでこられた時代、経験された事を教えて頂き、共に笑い、楽しみ、悲しんだりするように心掛けている。ケアにも必然性を作る仕掛けを考え、生きる事を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活の様子などを伝えたり、相談し一緒に考えたりしている。県外のご家族には、電話や手紙で様子を伝えたり相談している。ご家族と一緒にケアを行ったり、うまくいった言葉掛けなど伝えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅の時から行きつけの美容室で髪を切られたり、婦人会の会合に出席されたり、婦人会の方が面会に来られたりつながりを継続されている。ご親戚の希望で文通のやりとりを支援している。	行きつけの美容院や婦人会の会合への出席が継続できるように、一人ひとりの生活習慣を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性に十分に配慮して席を決めている。席は、都度見直しを行ない、ご利用者間の人間関係を大切にしている。個別に関われるように、憩いの場やテラス、渡り廊下の椅子などを利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了してからも、ご家族と連絡を取り合い様子を把握している。ご家族がボランティアやホームに来られたりと継続的なお付き合いもある。次の移住先に移られる際も、ご利用者のこだわりやケア内容を詳しく伝えるように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の協力を得てセンター方式を活用して、以前の暮らし方を把握し、どうしたら近づけるか話し合っている。ほとんどの方が普段の会話から、希望や意向を聴き出し、職員間で情報を共有している。「○○さんならこうだね。」と本人の気持ちで考えている。	「私の暮らし方シート」を活用している。日々の会話の中から声を掛け、思いや希望を聞き出し家族とも情報を共有しケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス前に自宅を訪問したり、ご家族に了解を得て、前サービス事業所を訪ねたりと情報の把握に努めている。情報で得た”本人のこだわり”をケアに生かすようにしている。ご親戚の面会時にも情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何事もまずはお願いしてみて、出来る事・出来ない事を知り、支援に繋げるにも、特に何がどこまでの把握をし職員間で情報を共有している。また、一人ひとりの心身の状況に応じての1日の過ごし方になっている。お菓子を袋から出して配っており、ご利用者の出来る力を奪っていた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の思いや意見を聞き、現状の把握に努め月1回のカンファレンスで話し合い、ご利用者の目指す姿を軸として意見や気づきを職員一同で出し合っている。介護計画は、チェック表に落とし現状を把握できるようにしている。	利用者、家族の思いを反映させた計画を作成し、毎月の定例会議で見直しをしている。モニタリングを職員全員がしやすいようにチェック表方式にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の言われた言葉、表情を記録に残している。言われた言葉が解決に繋がる事がある。また、職員のうちよく言った声掛けや興奮に繋がった声掛けも記入し、次に繋げるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリが必要なご利用者に付き添いを行ったり、買い物支援や喫茶店に付き添ったりなど、ご利用者の希望に応じて柔軟に支援を行っている。ご利用者の状態に応じて、職員の勤務時間を変更したり、時間帯を増やしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月4～5回地域の方が講師となり、ご利用者と交流をされている。今年も自治会の夏祭りにご利用者と共に参加し、住民の方ともコミュニケーションを図る事が出来た。交番や消防の方にも日頃から相談を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医が月に2回往診に来られる。入居前からのかかりつけ医を継続されているご利用者もおられる。また、体調不調時の急な受診は、事業所が対応し状態をご家族へ報告している。	入居時に希望を聞きかかりつけ医への要望があれば家族の協力を得て受診している。月2回協力医の往診や他の複数の医療機関とも連携し通院支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護職員が以前グループホームにおり状態を把握しており、何でも相談を行っている。月に1回訪問看護師が来る時には、ご利用者の報告と状態変化の相談を行い、受診に繋げたり助言を頂き解決に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が不安にならないように、入院先に面会に行っている。また、ご利用者の混乱の軽減の為に出来るだけ詳しい情報提供をするように心掛けている。ご家族や病院関係者と連絡を密にし、早期退院に向けて働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で「重度化した場合における対応に係る指針」で事業所の出来る範囲を説明し、終末期について主治医を交えながらご家族に希望や意向を話し合っている。終末期に入ってもご利用者の状態に応じて、その都度意向や希望を再度確認を行っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を基に主治医と連携し本人、家族等の意向を確認し話し合っている。終末期では家族も事業所に泊り職員と一緒に看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し研修、訓練を行っている。日頃から救急車が到着するまでに、何をすべきか話し合い考えている。また、併設の事業所にも普段からご利用者の情報や何をお互いに助けあうかも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方にも参加してもらい避難訓練を行っている。地域の方の意見で、ホーム内の消火器の場所を玄関に示すように改善を行った。併設施設が二階建ての為水害時には、地域の方の避難場所として使用してもらうように話し合っている。	毎月の防災訓練は出火場所、避難場所を決めず訓練を行っている。利用者も慌てることなく職員の声かけで玄関先へ避難している。大雪時の対策も地域と協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のケア目標に再三あがるほど、言葉使いには十分に気をつけている。職員間でも聞きづらい声掛けが減っていると実感している声が多かった。ご利用者本人を大切にしたい優しい言葉掛けや優しい対応を心掛けている。	職員間でもお互いに注意しあい、本人の気持ちを大切にさりげない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話からも思いや希望がわかると職員間で情報を共有し、希望が実現するように支援している。小さな事でもご利用者に選択してもらったり、相談をし自己決定に繋げるようにしている。また、ご家族に手話を教えてもらい、選択に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、ご利用の体調やペースに合わせている。外が気になられていると天気がいいと散歩に出掛けたり、職員と買い物やドライブに個別に行ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ばれたり、職員と一緒に選んだりされている。ホールに出られる前は、声掛けにて鏡を見ながら髪をとかしておられる。行きつけの美容院に行かれていますご利用者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に応じて食事の形態を考え、なるべくご自分で食べて頂けるように工夫をしている。会話の中で食べたいと希望されたものは、なるべく献立にあげるようにしている。迷われるご利用者に安易に食べられている途中で、一皿ずつ下膳してしまっていた。	季節野菜の下ごしらえや押し寿司づくりなど個々の力を活かし職員と一緒にやっている。職員と利用者は同じテーブルでゆっくりと食事を楽しみ、職員の見守りで下膳する利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、チェック表に記入して把握されている。食事を残される事が目立つ時は、その原因が何か探るようにしている。水分は、いろんな飲み物を1日約1300ccを目標として支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けに口腔ケアにお誘いをしている。残歯や義歯をほとんどの方がご自分で磨かれ、必要に応じて仕上げ磨きを行っている。舌や口腔の粘膜のお掃除をされている方もおられる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して誘導したり、排尿量が少ないときは、早めにお誘いをしている。また、排泄の動作が何処まで出来るかを職員間で話し合い、出来る力を奪わないようにしている。リハパンから下着にパットにほとんどの方が変更になった。	日々の記録を基に排泄パターンを知り早目の声かけや誘導をしている。布パンツにパット使用の人が殆どでトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時に便秘予防に牛乳を飲まれている。献立も食物繊維中心の物が多く、また生活の中で、なるべく動いてもらうしくみ作りを考へるようにしている。下剤を服用されている方は、便の状態や出方を確認し苦痛のないように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やご利用者に合わせた時間に入浴をお誘いしている。ゆず湯やいろいろな入浴剤などで入浴楽しんで入って頂けるようにしている。入浴のお手伝いも個々の能力に合わせて支援している。一番声掛けに配慮している。	夜間入浴の要望はないが一人ひとりの要望に合わせた時間帯に声かけしている。車椅子の人も職員二人で湯舟の中に入れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を豊かにして、生活のリズムを整え、外気浴などで体内時計にも働き掛けている。ハンドマッサージなどで気持ちよく休息をされる方やどうしても休息を嫌がられる方は、お茶を飲まれたり職員と一緒に過ごされたりとご利用者に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員2人確認を行い、飲み終わった袋でも再度確認している。服薬前にもご利用者に日付、名前、いつの薬か伝えてから飲んで頂いている。薬の変更時は、職員間で情報を共有し、その後の状態変化を確認するように心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、出来る事が役割に繋がるようにしている。一連の流れも工程でわけ、個々の役割に繋がるように配慮している。天気の良い日は、テラスで読書をされたり、トマトや花の水遣り、おやつ作りをされたりと個々で楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や管理者と喫茶店に行かれたり、職員と買い物や市役所、銀行、ドライブ、地域の行事に出掛けている。今年は、地域の鯉のぼりを見に行き、地域の方とも交流が出来た。ご家族と定期的に外食に行かれている方もおられる。	職員と一緒に食材の買い出しや喫茶店に車を出掛けている。自由に散歩に出掛ける人もあり行き先だけは確認している。天気の良い時は駐車場スペースやベランダでお茶など楽しむ工夫をしている。地域の行事や家族との外出もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の気持ちの安定の為に、ご家族の協力を得て、少額お財布に入れておられる。定期的にご自分でお財布の千円札を確認され安心に繋がっている。職員と買い物に一緒に出た時は、お金を渡しお店の人に支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親戚の方と文通されているご利用者がおられる。年々字を書くのが難しくなり、職員が代筆をして名前だけを書いてもらっている。定期的にご親戚の方に電話でも話されている。ご家族へ電話の希望時は、なるべく取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、どこからでも眺めがよく、木々や庭の花などを楽しみ日当たりもよい。西日が厳しい季節は、御簾を利用している。春は鶯、夏は蝉など心地よい季節を感じる鳴き声も聞こえてくる。トイレやホールにもご利用者がご自分で造花を飾られている。	ホールの天井は高く 風通しも良く明るく開放的な空間になっている。廊下やホールのソファでは食事後に自由にくつろぐことができる。笑顔で行事を楽しむ利用者の写真や雛人形の展示など工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスでカフェ風にお茶を飲まれたり、憩いの場のソファや畳で気のあったご利用者同士お茶を飲まれるようにセッティングしたりしている。玄関先で外気浴をしながらお茶にされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた寝具、好みの色のカーテン、ご主人の写真、衣類入れ、趣味の造花飾りなど持ち込まれている。持ち込みの少ないご利用者もおられ、現在ご家族に奥様の写真を復元してもらっている。	利用者が書いた表札や使い慣れた家具が置かれている。習字や家族写真を飾り心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には、スロープが設置してあり、玄関先には、座って靴の脱ぎ履きができるように、備え付けの椅子を設置してある。出来る方には、靴の出し入れをしてもらっている。廊下に写真が貼ってあり自発的な散歩コースになっている。		